装束に見る松山能「鬼」と「女の情念」

能『安達原』前場装束「唐織無紅茶地」

能『安達原』前場

能『安達原』後場

前場面「深井」

前場面「深井」（江戸時代）

後場面「般若」

写真に見る松山能　花の能・月の能・雪の能

皇大神社奉納『針立雷』（8月）

羽州庄内松山城薪能（6月）

大寒能『紅葉狩』（2月）

大寒能『羽衣』（2月）

受け継がれる能　子供狂言クラブ

狂言『盆山』

新聞で見る「松山能」

狂言『六地蔵』

狂言『鬼の首引き』練習風景

狂言『鬼の首引き』練習風景

第154回企画展

伝統芸能を受け継ぐ

松山能と黒森歌舞伎

開催期間 平成20年
8月28日(木)～10月26日(日)

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 会期中無休

入館料 一般100円・小学生～大学生50円
（土・日曜日は小・中学生無料）

酒田市立資料館

酒田市一番町8番16号　TEL 0234-24-6544
e-mail : sakata-city-museum@fork.ocn.ne.jp

黒森少年歌舞伎『白波五人男』

松山能『東北』

開催にあたって

山形県教育委員会発行の『山形県民俗芸能悉皆調査報告書』によれば、酒田市には85の民俗芸能が伝承されていると、記されています。

伝統芸能は「心のふるさと」と言われ、各地域での産土神に対する信仰とともに娯楽や賑わいを通して、人びとの絆を深める場となり、また、これらの芸能は、生業や生活と深く結びついて受け継がれてきました。しかし、社会や産業構造の変化は、その継承を難しくしてもおります。かつて、山形の丹野正氏は「咲き香れ、民俗芸能の花！」として、温かな眼差しを注ぎつつ、県内各地で民俗芸能の掘り起こしとその継承に尽力され、本市の民俗芸能の保存活動にも大きな影響を及ぼしました。

本展では、静と動の対極にある山形県指定無形民俗文化財の松山能と黒森歌舞伎を取り上げて、江戸時代以来受け継いできた伝統芸能の素朴な美しさと一瞬の輝きを紹介し、伝統芸能を支えてきた人びとの活動と心情に迫ります。

本展開催にあたり、貴重な資料をご提供くださいました関係団体、各位並びにご指導・ご協力賜りました方々に心から御礼申しあげます。

【資料提供及び協力団体】財団法人致道博物館、黒森歌舞伎妻堂連中、黒森歌舞伎保存会、酒田ふれあい商工会松山支所、松諷社、松山能振興会、酒田市黒森公民館、同黒森コミュニティ振興会、酒田市立黒森小学校、同松山小学校、酒田市松山教育振興室、同松山地域振興課、同松山文化伝承館

黒森歌舞伎のあゆみ

①　②

『妻堂台帳』
①嘉永3年～明治27年
②明治29年～昭和48年
③昭和49年～現在

御面

③

『弘化三年』銘がみえる浄瑠璃の見台

『御面奉納一札の写』(右)
『三社御面由来書』

『寿曽我』対面の場　十郎着用青地蝶模様肩衣・長袴
平成21年正月公演本狂言

『寿曽我』対面の場　五郎着用青地千鳥模様肩衣・長袴

時姫役かつら

『寿曽我』対面の場

平成21年正月公演二番狂言
『鎌倉三代記』時姫着用 赤地流水花筏模様裲襠

『白波五人男』
日本駄右衛門役
かつら

日本駄右衛門着用着付

受け継がれる歌舞伎 ささえる人々

絵暦より「公演と中売」
2月15日、17日

絵暦より「お面開き」
8月16日

絵暦より「妻堂御興」
4月29日

『黒森芝居の絵暦』

虫干し後の衣裳収納

出演前の準備

花道作り

組立舞台作り